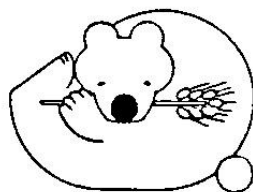


桶川市図書館サービス基本構想（第3次）

（令和6年度から令和10年度まで）

暮らしとともにある図書館をめざして



桶川市教育委員会

目 次

I	図書館サービス基本構想（第3次）策定にあたって	1 P
1	図書館のあゆみ	1 P
2	図書館サービス基本構想（第3次）策定の趣旨	2 P
II	桶川市図書館の現状と課題	3 P
1	図書館施設及び運営状況	3 P
2	図書館サービス	5 P
(1)	資料収集と蔵書状況	5 P
(2)	利用状況	7 P
(3)	レファレンスサービス	10 P
(4)	児童・青少年サービス	12 P
(5)	障害者サービス	13 P
(6)	高齢者サービス	15 P
(7)	視聴覚サービス	16 P
(8)	郷土資料サービス	17 P
III	市民の図書館活動への参加と協働についての現状と課題	18 P
1	読書会活動	18 P
2	ボランティアとの連携	19 P
IV	図書館に関連する桶川市の計画	20 P
1	桶川市第六次総合計画	20 P
(1)	基本理念と将来像	20 P
(2)	政策と施策	20 P
2	桶川市デジタル田園都市構想総合戦略	22 P
(1)	基本方針	22 P
(2)	基本目標と施策	22 P

V	これからの図書館サービスについて	23 P
1	基本理念	23 P
2	これからの図書館サービス	23 P
(1)	市民ニーズに応える蔵書収集	23 P
(2)	市民に対する図書館サービスの周知及び、年齢層に応じた事業の展開	23 P
(3)	地域の情報拠点になり、市民生活の課題解決に役立つ図書館	24 P
(4)	子供が読書活動に親しむための体制強化	24 P
(5)	障害のある方へのサービス	24 P
(6)	高齢者を対象としたきめ細かなサービスの提供	25 P
(7)	視聴覚サービス	25 P
(8)	郷土資料	25 P
(9)	読書会活動	25 P
(10)	よりよい図書館運営のためのボランティアとの連携	25 P
3	図書館施設の整備	26 P
(1)	既存施設の健全な管理	26 P
4	図書館の運営	26 P
(1)	図書館管理運営とサービス水準の維持	26 P

資料編

- ・ 「桶川市図書館利用者アンケート」の実施結果について（資料1）
……………資1 P
- ・ 図書館利用統計（令和4年度）（資料2）……………資9 P
- ・ 令和4年度末蔵書数（資料3）……………資10 P

I 図書館サービス基本構想（第3次）策定にあたって

1 図書館のあゆみ

桶川市図書館は、昭和50年に移動図書館車「むぎぶえ号」がボランティアの協力を得て市内を巡ったことからサービスを開始しました。

その後、昭和62年に桶川市立図書館（以下「旧市立図書館」）、昭和63年に桶川市立駅西口図書館（おけがわメイン内）（以下「駅西口図書館」）、さらに平成4年に桶川市川田谷生涯学習センター（以下「生涯学習センター」）内に桶川市立図書館川田谷分室（以下「旧川田谷分室」）が開設され、2館1分室体制となりました。その後、移動図書館車が廃止になったため、平成27年に加納公民館に図書受渡しサービスポイントを新設しました。

駅西口図書館については、平成27年10月の再整備に伴い、施設面積の拡充と閲覧席の増設を行い、滞在型図書館として生まれ変わりました。同時に、民間の豊富なノウハウを生かした指定管理者による運営により、定期休館日の廃止、開館時間の延長等、市民サービスの向上を図りました。また、隣接する OKEGAWA hon プラス+のイベントスペースにおいて、官民連携による新しい知の文化交流のイベントや講座などを開催することにより、新しい人の流れが生まれ、地域のにぎわいの創出につながっています。

さらに、平成30年4月に旧市立図書館が建物の大規模改修により、閲覧席の増設や館内の書架の配置と高さの見直しを行い、滞在型の図書館としてリニューアルオープンしました。

【令和元年度から5年間の総括】

平成31年4月には、市東側の坂田地区に桶川市立坂田図書館を開館しました。（加納公民館図書受渡しサービスポイントは令和2年3月で廃止）

これとあわせ、旧市立図書館を桶川市立桶川図書館に、駅西口図書館を桶川市立中央図書館に、旧川田谷分室を桶川市立川田谷図書館に改名しました。これにより中央図書館が4館を統括し、他3館がそれぞれの地域の情報の拠点として、市内全域に図書館サービスを提供できる体制が整いました。

また、市民の方々と連携する読書会活動を推進し、ボランティアの方々との協働によるおはなし会の開催や、障害者サービスの充実などを積極的に推進して

います。

なお、コンピュータシステムは、昭和 62 年に初めて導入後、定期的にシステムの見直しを行い、利用者の利便性を図っています。最新の見直し後、検索・予約機能を基本とし、図書館からのお知らせや利用状況の確認がスムーズにできるようになっており、インターネットや O P A C (館内利用者端末機)からの資料の予約申込みや貸出期間の延長、メールでの予約のお知らせなどができるようになっています。また、電子図書館や L I N E 連携により、来館しなくても提供できるサービスについても取り入れています。

2 図書館サービス基本構想（第 3 次）策定の趣旨

近年、市民意識の多様化や生活を取り巻く社会環境の変化により、市民の知的要求が高まる傾向にあり、図書館はこのようなニーズへの対応が求められています。市民の知的要求に的確に応えることは、図書館の大きな使命と考え、そのためには、これからの図書館の在り方を示し、求められる図書館サービスの実現に向けて、諸施策を展開していくことが必要です。

また、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」(平成 24 年 12 月 19 日 文部科学省告示第 172 号)の中で、市町村立図書館は「事業の実施等に関する基本的な運営方針を策定し、公表するように努めるもの」とされています。

こうしたことを受けて、桶川市教育委員会では、平成 26 年 3 月に「桶川市図書館サービス基本構想」、平成 31 年 4 月に「桶川市図書館サービス基本構想（第 2 次）」(以下「第 2 次サービス」)を策定しました。

今回の構想は「第 2 次サービス」の計画期間(令和元年度から令和 5 年度)の終了に伴い、サービスの課題を再検証するとともに、今後の課題を整理し、これからの図書館の在り方を示すことを目的として策定するものです。

なお、後述の【取組・成果】については、これまでの経緯や現状を整理した内容も含まれています。

構想の期間は令和 6 年度から令和 10 年度までの 5 年間とし、社会情勢の変化を踏まえ、必要となった場合は適宜見直しを行っていくものとします。

II 桶川市図書館の現状と課題

総合計画施策の展開：1041 多様な学習機会の提供

1 図書館施設及び運営状況

【取組・成果】

平成 31 年 4 月に、市東側の坂田地区に坂田図書館が開館するとともに、駅西口図書館を中央図書館と名称変更し 4 館を統括、併せて他の 2 館も名称変更し、坂田図書館も含めて 3 館がそれぞれの地域の情報の拠点となり、市内全域に図書館サービスを提供できる体制が整いました。

平成 31 年 4 月から 4 館一括で指定管理者が管理運営することにより、より一層の図書館サービスの向上を図っています。

なお、川田谷図書館については令和 4 年 7 月から生涯学習センターの建物老朽化により休館となりましたが、令和 6 年 1 月にリニューアルオープンしました。施設設備を更新し、学習席を設け、Wi-Fi 環境を整備しました。令和 7 年 3 月には道の駅（仮称「道の駅おけがわ」）が開業予定のため、市内だけでなく、遠方の人々の立ち寄りスポットになることが期待されています。この川田谷図書館のリニューアルにより、平成 27 年に始まった桶川市図書館の施設の更新については完了となりました。

〔表 1〕各図書館の主な機能及び運営状況

（平成 31 年 4 月から）

館	主 な 機 能	運 営
中央図書館 （旧駅西口図書館） 規模：1,511 m ² 蔵書：120,142 点 （令和 4 年度末）	〔サービスの拠点館〕 ・市内 4 館を統括 ・市民生活に直結する情報の提供窓口 ・図書館における市民との協働の拠点館 ・OKEGAWA hon プラス+との連携	指定管理者
桶川図書館 （旧市立図書館） 規模：532 m ² 蔵書：66,099 点 （令和 4 年度末）	〔CD 貸出し及び地域サービスの拠点館〕 ・CD 貸出しの拠点館 ・資料管理・資料保存（書庫）の拠点館	指定管理者

川田谷図書館 (旧川田谷分室) 規模：238 m ² 蔵書：32,620 点 (令和4年度末)	〔郷土資料及び地域サービスの拠点館〕 ・郷土資料の拠点館 ・歴史民俗資料館との連携	指定管理者
坂田図書館 (平成31年4月開館) 規模：464 m ² 蔵書：35,719 点 (令和4年度末)	〔児童・青少年サービス及び地域サービスの拠点館〕 ・児童・青少年サービスの拠点館 ・児童書・子育てに関する図書の収集 ・地域自治会等との連携	指定管理者

【課題】

- 図書館サービス水準の維持（継続）
引き続き、全館指定管理者による管理運営となりますが、どの館でも大きな格差のない一定水準のサービス提供・維持が必要です。
- 人材の育成（更新）
サービスを支える職員の育成と能力の向上が重要です。



【取組の方針】

市民が、だれでも、どこに住んでいても、大きな格差なく図書館サービスを利用できる環境の維持に努めます。また、どの館でも一定水準を満たしたサービスが受けられる体制で運営しつつ、各館ごとの特性を生かした取り組みにも努めます。

- 図書館全館のサービス水準の維持に努めます。
- 各館それぞれの特性を生かしたサービスを提供します。
- 専門性と幅広い知識を身に付けるための研修等により、人材の育成に努めます。

2 図書館サービス

(1) 資料収集と蔵書状況

【取組・成果】

資料の収集は、各図書館の資料に特色を持たせるように進め、閲覧・貸出に供するため保存・管理しています。適宜、図書や書架（本棚）の表示、配架場所を見直すなど、利用者が目的の資料を探しやすいよう工夫をしています。

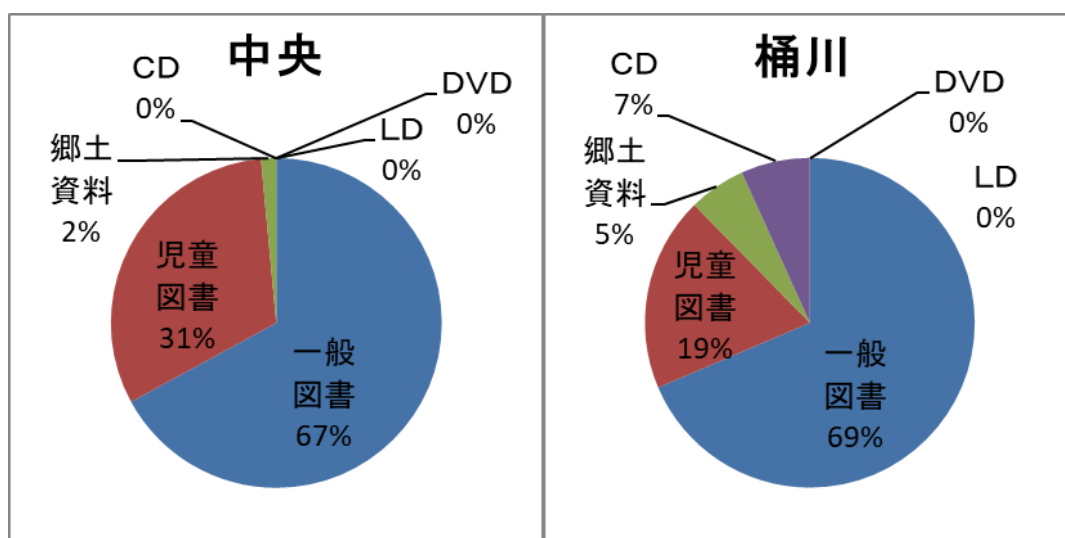
桶川市図書館の中で書庫を備えている桶川図書館と川田谷図書館では、その整理に努め、全館の資料の保存に取り組んでいます。

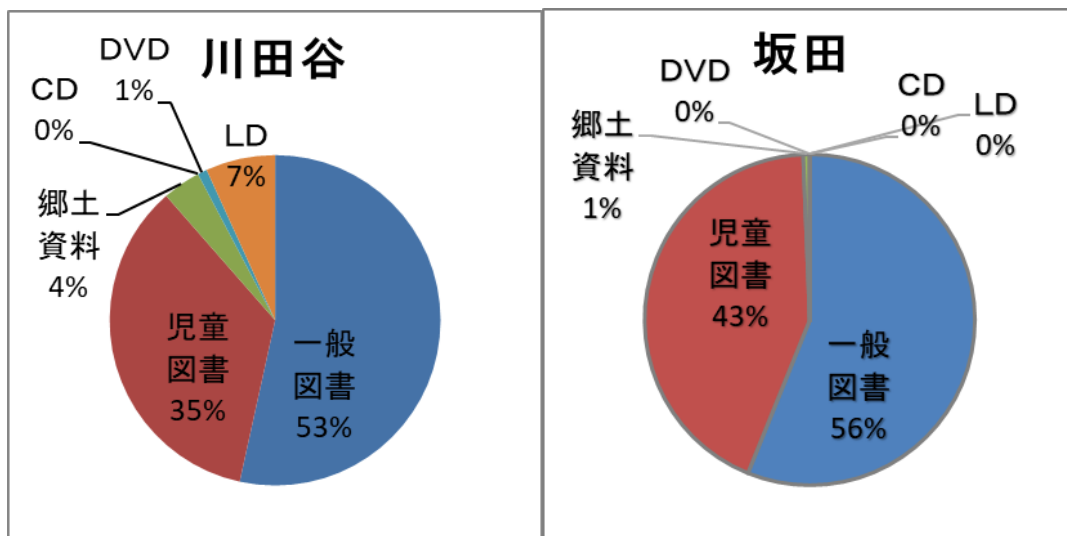
なお、平成27年に導入した電子図書館サービスについては、令和3年度の国からの交付金の活用により、非来館型サービスの一環として、電子書籍のコンテンツ数を1,500点以上増やしました。電子書籍には文字の拡大・縮小、読み上げ、表示の白黒反転が可能なものもあり、障害がある方にも読書が楽しめるよう配慮されています。

また、令和5年9月に実施した図書館利用者アンケート（以下「利用者アンケート」）の結果によると、資料の質や量の充実を求める声が多く寄せられています。

〔図1〕各館の資料種別割合

(令和4年度)





【課題】

- 市民ニーズに応える蔵書収集（更新）
「桶川市図書館資料選定収集方針」に基づき、市民ニーズや社会動向に応じ、各館の特性に応じた多様な資料の収集が引き続き必要です。



【取組の方針】

- 外国語資料を含め様々な分野から資料収集に努め、質、量ともに蔵書を充実させます。
- 各地域の特色を生かした各館の資料収集に努めます。
 - 所蔵していない資料については、他の自治体図書館からの貸出も活用しつつ、速やかに利用者に提供できるよう努めます。
 - 市民の求める資料が適切に保存・管理できるよう、引き続き書架の整備に努めます。
 - 電子図書館サービスについても、内容を充実させていくことが重要です。

(2) 利用状況

【取組・成果】

表2のとおり、年齢別の図書館利用登録者数を見ると、70歳代以上の登録者が最も多く、利用者アンケートの結果でも、回答者の約半数が60歳以上で、高齢者の利用が多いことが伺えます。

図2のとおり、全館が指定管理となった令和元年度には貸出者数（年間利用者数）が155,000人（桶川市第五次総合振興計画後期基本計画の中の目標値）を上回っていましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、臨時休館や開館時間の短縮等、サービスの縮小を余儀なくされ、利用者数、貸出冊数共に令和元年度と比べて大幅な減少となりました。

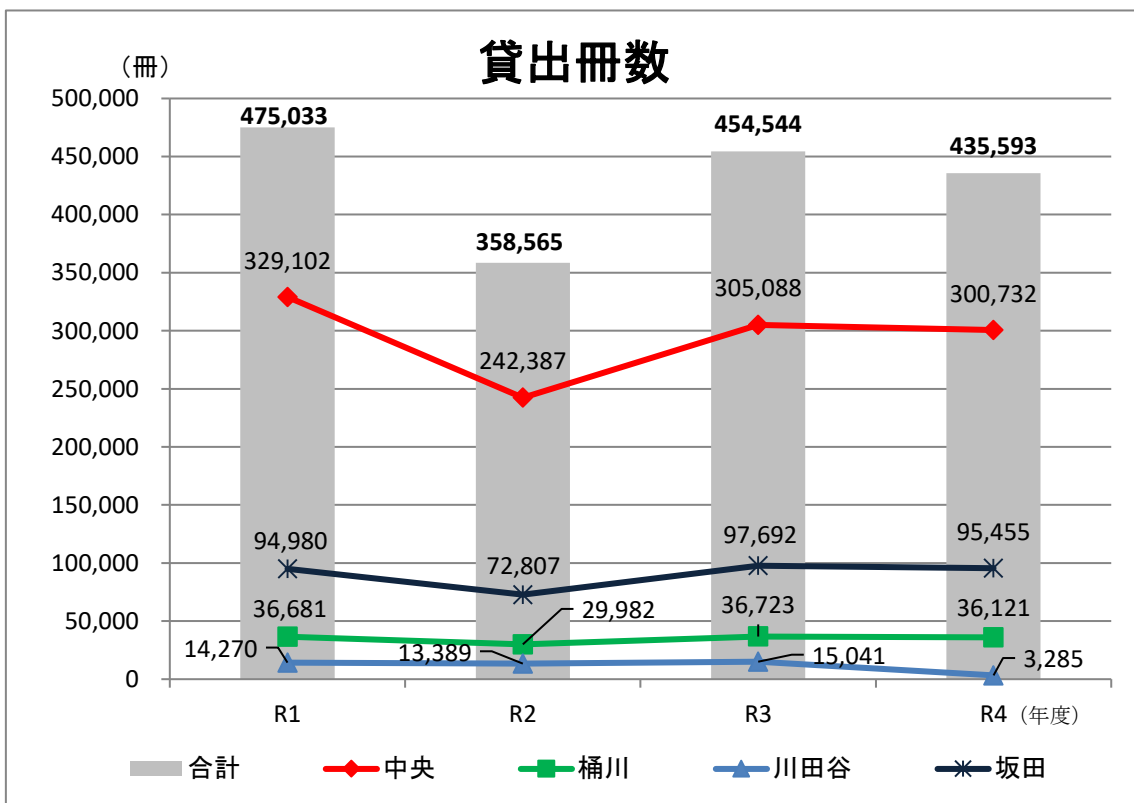
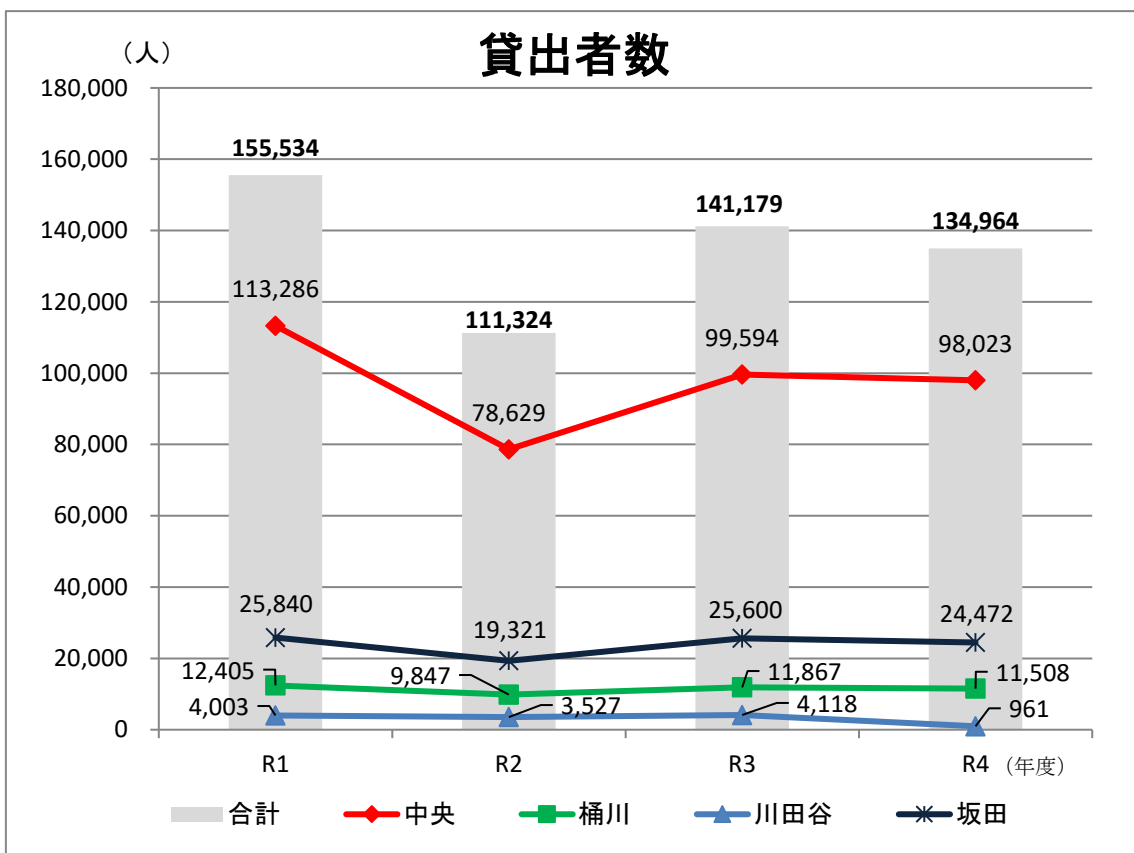
利用者アンケートの結果によると、催し物の参加について、利用する人が増加傾向にあるものの、子供向けイベントの参加状況については、想定人数に満たないものもあります。また、要望の中で、更なる開館時間の延長を求める意見も寄せられ、図書館利用のニーズが高いこともあらためて分かりました。

〔表2〕 図書館利用登録者数の年齢別構成割合

年齢	割合
0～6歳	1%
7～12歳	4%
13～19歳	7%
20～29歳	15%
30～39歳	16%
40～49歳	16%
50～59歳	14%
60～69歳	9%
70歳以上	18%

(令和4年度)

〔図2〕 過去4年間の貸出者数と貸出冊数



【課題】

- 未利用者へのアプローチ（更新）
図書館ホームページや広報などの活用、さらに新たな情報ツールによる、図書館事業やサービスのPRが必要です。
- 年齢層に応じた図書館サービスの展開（継続）
市民の歩むライフステージやニーズに応える図書館事業の実施が必要です。



【取組の方針】

図書館の利用促進のため、図書館サービスを市民に周知し、年齢層に応じた事業を展開するよう努めます。

- SNSなどの情報ツールを活用し、図書館事業やサービスのPRを積極的に行います。
- 誰もが親しみやすく利用しやすい図書館づくりのために、利用者の年齢層に応じたサービスの充実に努めます。

(3) レファレンスサービス

【取組・成果】

レファレンスサービスとは、利用者の相談に応じて、必要とする資料や情報を提供し、学習や調査・研究の支援を行うサービスで、利用者との資料を結びつける図書館の重要なサービスです。

令和4年度のレファレンスサービスの件数は、表3のとおりです。現代における情報は多様化し、書籍だけでなく様々なメディアにわたっての調査が求められるため、職員のレファレンスの能力向上に努めることが重要です。

一方、情報化の進展に伴い、利用者がインターネット等により情報を直接取得できる環境整備が必要となり、そのニーズも高まっていたため、中央図書館では商用データベースを利用できる端末を設置していますが、利用が少ないのが現状です。

また、全館にインターネット端末を設置しており、図書資料を補完する情報ツールとして利用者に活用されています。

〔表3〕レファレンス受付件数

(令和4年度)

	中央	桶川	川田谷	坂田	合計
口頭	7,282件	2,078件	213件	2,684件	12,257件
電話	945件	296件	9件	283件	1,533件
合計	8,227件	2,374件	222件	2,967件	13,790件

※令和4年度途中から川田谷図書館は大規模改修のため、長期休館となりました。

【課題】

- レファレンスサービスのPRと体制維持（継続）
市民の生涯学習ニーズの多様化に伴い、学習、調査、研究に生かせる専門書の充実や専門的なレファレンスサービスが望まれています。このため、現在のレファレンスサービスのPRと、専門の知識を備えた担当者の配置とスタッフのレファレンス能力の向上ができる体制の維持が必要です。
- レファレンスサービスに必要な資料や情報源の促進（継続）
利用者の求めに応じて、必要な資料や情報を提供するためには、資料の充実が必要です。同時に、利用者が自分でインターネットやデータベース等で調べものができる環境の整備及びサービスのPRが必要です。



【取組の方針】

- 地域の情報拠点になり、市民生活の課題解決に役立つ図書館を目指します。
- レファレンスサービスのPRと、市民の生涯学習ニーズに対応ができる専用の体制維持に努めます。
 - 資料の充実を図るとともに、データベースの活用方法についても広報し、市民がインターネット等を利用し、自ら調べることができる環境の維持に努めます。



(4) 児童・青少年サービス

【取組・成果】

児童サービスでは、ボランティアとの協働によりおはなし会を実施しています。読書の楽しさを知るきっかけづくりとして、図書館だより「もりのくまさん」のおすすめ本の紹介や、読んだ本の記録を残せる読書アルバムの配布等も行っています。さらに「第2次桶川市子供読書活動推進基本計画」を基に、関係機関と連携したセカンドブック事業を推進しています。

小中学校との連携では、学校団体貸出や図書館見学、中学生社会体験チャレンジ事業などの受入れを行っています。

青少年（ヤングアダルト）に対するサービスとして、中央図書館と坂田図書館にYAコーナーを設け、その年齢に配慮した読み物や、社会参加への準備に必要な資料を提供しています。しかし、全国的に年齢が上がるにつれて読書離れが進む傾向が見られます。各館で学習スペースを設けていますが、場所の提供だけでなく、中高生が様々な本に触れ、読書に親しめる機会が増えるよう検討する必要があります。

その他、県の推奨図書の企画展示を行うことで、優良図書の普及・啓発に貢献したり、あかちゃんタイム、あかちゃんおはなし会を実施し、小さいお子さん連れの方にも気軽に利用してもらえるよう努めています。

【課題】

- 家庭・地域・学校・図書館の相互協力と連携体制の強化(継続)
引き続き保護者に子供の読書の大切さを伝え、地域においてはボランティアの人材育成を行っていくことが重要です。家庭・地域・学校との情報交換を含め、関係機関との連携を強化していくことが重要です。
- 子供と本をつなぐ取り組みの充実(新規)
読書習慣の形成につながるサービスにより力を入れることが必要です。



【取組の方針】

家庭・地域・学校と図書館が一体となり、子供の読書活動を支援します。

- 読み聞かせや読書の重要性について保護者の理解を促進し、家族で利用しやすい図書館を目指します。
- 引き続き、地域のボランティアや学校と協力し、子供の読書活動の推進を図ります。
- 引き続き、児童書の充実、優良図書の普及に努めます。
- 中高生向けの講座の実施や情報提供に努めます。

(5) 障害者サービス

【取組・成果】

障害者サービスとは「図書館の利用に障害がある人へのサービス」です。心身の障害だけでなく、病気、高齢が理由で来館や活字による読書に困難がある場合も対象となります。

主なサービスとして視覚障害者向けに録音図書（カセットテープやDAISY図書^{※1}）の貸出を行っています。点訳図書の申し込みも可能です。来館のほか、郵送での貸出も行い、利用者の要望に応じています。

また、ボランティアの協力により、図書館だよりの録音や広報の拡大写本、関係機関の広報誌を点訳したものの提供を受けています。

設備としては、中央図書館に対面朗読室を設置し、ボランティアの協力による対面朗読サービスを実施しています。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行をきっかけに令和2年度以降はサービスの利用がほとんどない状態が続いています。

また、坂田図書館ではりんごの棚^{※2}を設置し、点字絵本、布絵本、LLブック^{※3}など、文字による読書が難しい人でも手に取りやすい本を集めています。その他、どこにどの分類の本があるのか、誰がみてもわかりやすいように、棚にピクトグラム（絵文字）を表示しています。

※1 印刷物による読書が困難な人のための、デジタル録音図書。目次機能や検索機能がついています。

※2 特別な配慮を必要とする子供向けの本のコーナー。大人も利用可能です。

※3 やさしく短文で書かれ、絵文字や写真を使った本。

【課題】

- ボランティアとの連携（更新）
引き続き、対面朗読や録音、点訳のためのボランティアとの連携が必要です。
- 利用者へのPRと実際の利用につなげる体制作り（継続）
障害のある方へ図書館の行っているサービスを周知し、利用につなげる方法、円滑な利用ができる体制作りを検討することが必要です。
- 利用しやすい環境の整備（新規）
「読書バリアフリー法」に基づき、障害がある方のニーズを把握し、必要なサポートを行えるよう努めることが重要です。



【取組の方針】

- 関係機関やボランティアと連携し、障害に応じたサービスを充実します。
- 引き続きボランティアとの連携を強化します。
 - 利用案内等を配布し、積極的に図書館サービスの周知に努めます。
 - 障害に応じた柔軟な対応やニーズに合わせた資料の提供など、利用しやすいサービスが提供できるよう努めます。
 - 視覚障害者の読書支援のため全国の関係機関と連携し、引き続き録音図書等の資料提供を進めます。
 - 通常の活字が読みづらい方にも利用できる資料の充実を図ります。

(6) 高齢者サービス

【取組・成果】

桶川市の人口に占める65歳以上（高齢者）の割合は、29.9%で（令和5年1月現在）、図書館利用登録者に占める60歳以上の割合も27%に達しています。利用者アンケートの結果から図書館の利用状況を見ても、高齢の利用者の割合が全体の半数以上となっています。

こうした高齢者のニーズに対応して各館に大活字本のコーナーを設け、文字が読みづらくなった方にも読書を楽しんでいただけるよう取り組んでいます。また、認知症の介護者に向けた資料の収集や認知症への理解を深めてもらうため、関係機関と連携して関連資料の展示やおはなし会の実施を行っています。

〔表4〕大活字本所蔵状況

（令和4年度）

中央	桶川	川田谷	坂田	合計
717冊	747冊	94冊	461冊	2,019冊

【課題】

- 高齢者が利用しやすいサービスの提供（継続）
高齢者の利用は増加傾向にあり、資料の収集や提供方法の工夫、館内施設・設備への配慮など、より利用しやすい環境を整備することが必要です。



【取組の方針】

- 高齡者に対応したサービスを提供します。
- 大活字本をはじめ、高齢者の生活や学び、ニーズに対応した資料の充実に努め、提供方法についても検討します。
- 居場所として、読書やライフワークの調査研究などで快適に過ごせる環境を維持します。

(7) 視聴覚サービス

【取組・成果】

視聴覚資料を収集し、館内での視聴や貸出サービスを行っています。館によって所蔵資料を分けて提供し、幅広い年齢層の方が利用しています。

〔表 5〕 視聴覚資料所蔵状況 (令和4年度)

所蔵館	種類	所蔵資料数	備考
桶川図書館	CDの貸出	CD 4,431点	貸出可能点数2点
川田谷図書館	LD及びDVDの視聴	LD 2,215点 DVD 304点	視聴ブース2台 (館内視聴のみ)

※LD・・・レーザーディスク

【課題】

- 映像・音声資料など多様な種類の視聴覚資料の収集・保存（継続）
川田谷図書館のLDについては、再生機が生産終了により、今後更新が難しい状況のため、引き続きDVDの収集を進め、桶川図書館のCDについては、定期的に更新することが重要です。



【取組の方針】

視聴覚資料の充実を図ります。

- 利用者のニーズを考慮しながら、計画的な視聴覚資料の収集・保存に努めます。

(8) 郷土資料サービス

【取組・成果】

桶川市及び埼玉県内に関する出版物、行政刊行物を郷土資料として収集し、館内での閲覧や貸出サービスを行い、利用者の学習活動や調査・研究の資料として活用されています。

〔表 6〕 郷土資料所蔵冊数

(令和 4 年度)

中央	桶川	川田谷	坂田	合 計
1,756 冊	3,647 冊	1,211 冊	221 冊	6,835 冊

【課 題】

- 桶川市及び埼玉県内に関する出版物と行政刊行物の収集（継続）
各関係機関と連携して可能な限り資料を収集し、利用者の学習活動や調査・研究に活用できるよう環境を整えることが必要です。
- 資料の充実と情報の提供（継続）
川田谷図書館を中心に各館の郷土資料コーナーを充実させ、歴史民俗資料館との連携により、資料や情報を提供できる体制維持が必要です。



【取組の方針】

郷土資料の充実を図ります。

- 川田谷図書館を中心に各館の郷土資料の充実を図り、保存・活用に対して継続的かつ積極的に取り組めます。
- 歴史民俗資料館と連携した講座の実施等、サービスの推進に努めます。

Ⅲ 市民の図書館活動への参加と協働についての現状と課題

総合計画施策の展開：1044 人材の育成と活用

1 読書会活動

【取組・成果】

読書会及び創作に関わる実作サークルが市内で複数活動しており、中央図書館を主な活動の場所としています。図書館は活動への助言や資料提供などを行っています。

〔表7〕 図書館利用団体数 (令和4年度)

読書会	7 団体
実作サークル	7 団体

また、各団体の新入会員を迎えるための一環として、中央図書館に隣接する OKEGAWA hon プラス+ イベントスペースを活用した作品の展示や活動の紹介を行っています。

【課題】

- 図書館利用団体への活動支援（更新）
多くの団体で高齢化が進む中、会員数を増やすためのサポートが必要です。



【取組の方針】

- 図書館利用団体の活動を支援します。
- 読書会活動の推進に努めます。
- 図書館利用団体の紹介に努めます。

2 ボランティアとの連携

【取組・成果】

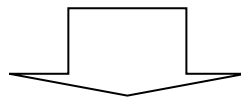
障害者サービス及び児童サービスにおいて、ボランティア団体の協力を頂いて事業を行っています。

- ・対面朗読ボランティア
- ・点訳ボランティア
- ・録音ボランティア
- ・おはなし会朗読ボランティア

図書館ではボランティア活動への参加の足掛かりとして、実践に役立つ絵本の読み聞かせ講座や音訳者の養成講座を開催し、ボランティアの育成を図っています。

【課題】

- 市民との協働による図書館サービスの推進（継続）
図書館サービスの効果的な実施に向けて、引き続き市民ボランティアの参加が求められています。
- ボランティアへの活動支援（継続）
新規参加者の募集及び、各ボランティアの技術を深めるための支援が必要です。



【取組の方針】

今後のより良い図書館運営をする中で、ボランティアとの協働をさらに進めていきます。

- ボランティアとの協働による図書館サービスの促進に努めます。
- ボランティアの養成と技術向上のための講座を開催します。

IV 図書館に関連する桶川市の計画

1 桶川市第六次総合計画

桶川市第六次総合計画（以下「総合計画」）における基本構想は、計画期間を令和5（2023）年度から令和14（2032）年度までの10年間として、策定されました。

（1） 基本理念と将来像

総合計画 基本理念

一人ひとりを大切にするまち
安心・安全に住み続けられるまち
人と自然が共生するまち
みんなでつくる活気あるまち
変化を力にするまち

そして、この基本理念をもとに、桶川市の将来像を以下のとおりと決めました。

「学び豊かな 笑顔あふれる 幸せ未来都市 おけがわ」

「学び豊かな」は、人生100年時代を迎える中で、市民が時代や社会の変化に対応できるよう、自らの学びを深めながらまちづくりの主役として過ごせる状態を表現しています。

「笑顔あふれる」は、市民一人ひとりが多様性を認めつつ地域で支え合いながら、誰もが安心できる暮らしや充実した生活を営んでいる理想的な状態を表現しています。そして、「幸せ未来都市」は、幸せを実感できる笑顔あふれるまちを未来へつなげるという市の姿勢を示しています。

（2） 政策と施策

総合計画の基本構想には、教育・文化に関する分野の政策として、次のとおり定めています。

政策：「生きる力と豊かな心を育む 桶川」

市民一人ひとりが豊かな創造性を育む環境や、子どもから大人まで誰もが学び続け、活躍できることが、人づくり、地域づくりにつながり、まちの魅力や活力の維持・向上へとつながります。このため、子ども達の創造性を育む教育や誰もが生涯にわたる学びを通じ、地域の自然や文化に触れ、個性や価値観を認め合いながら、生きがいのある豊かな人生を育むことができるまちづくりを進めます。

この政策の趣旨を実現するため、総合計画前期5か年基本計画（計画期間：令和5年度から令和9年度まで）に、図書館における基本事業として、次のとおり定め、推進しています。

〔基本施策〕

施策 104 生涯学習・生涯スポーツの充実	
対 象 : 市民	
主な SDGs のゴール : 質の高い教育をみんなに	
施策（現状と方針）	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人生 100 年時代を迎え、ライフスタイルや価値観が多様化する中、人生をより豊かにする生涯学習や生涯スポーツの充実が一層求められています。 ○ 多様な学びの場となる社会教育施設は、地域の歴史や文化、主体的な学びの拠点として重要な役割を担っています。また、多様な学習機会の拡充に向け、生涯学習団体への支援や育成などに取り組んでいます。
方 針	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会教育施設における多様な学習機会の提供や、高校や大学、企業などと連携しながら、子どもから高齢者まで多くの市民が自発的、意欲的に学び、活躍できる生涯学習・生涯スポーツを推進します。 ○ 地域における生涯学習や生涯スポーツの活性化に向け、人材の育成や活動団体に対し自発的、意欲的な活動が継続できるよう必要な支援を行います。

〔施策の展開〕

1041 多様な学習機会の提供
公民館、図書館、歴史民俗資料館では、施設間の連携を図るとともに高校や大学、企業などと連携しながら、市民が自発的、意欲的に学べる環境の形成を図ります。
1043 生涯学習・生涯スポーツ施設の環境整備
生涯学習や生涯スポーツのための施設について、利用ニーズに応じた適正な維持管理と機能の充実を図ります。
1044 人材の育成と活用
生涯学習や生涯スポーツの推進に向け、地域で活躍できる人材の育成など必要な支援を行います。

2 桶川市デジタル田園都市構想総合戦略

桶川市デジタル田園都市構想総合戦略（以下「第2期総合戦略」）は桶川市の人口減少抑止に向け、本市の特性をいかした効果的な取り組みを体系的にまとめ、計画的に推進するために策定されました。計画期間を令和5（2023）年度から令和9（2027）年度までの5年間としています。

（1）基本方針

「子育て環境の充実」、「移住・定住の促進」、「ふるさと回帰」、「拠点の形成」、「デジタルの実装」

（2）基本目標と施策

基本方針を踏まえた基本目標のひとつを「基本目標3 魅力的な地域をつくる」とし、その施策の中の「施策3-2 生涯学習・学び直しの機会の充実」では、必要な取組の内容を「図書館等の学びの場の充実」としています。そして、施策の効果を推し量る指標として、令和9年度末までに「図書館の貸出冊数」を現状値（令和4年度）の435,593冊から目標値の480,000冊とすることを掲げています。

V これからの図書館サービスについて

前項までに記述したこれからの図書館の在り方、そして、桶川市図書館の現状を踏まえて、これからの図書館サービスの構想を以下のとおり定めます。

1 基本理念

「暮らしとともにある図書館をめざして」

趣 旨

桶川市図書館は、常に市民の身近にありたいと願い、活動を続けてきました。また、第六次総合計画における桶川市の将来像に、「学び豊かな 笑顔あふれる 幸せ未来都市 おけがわ」を掲げています。

桶川市図書館は、市民にとって最も身近な情報提供機関として、この街での暮らしが豊かなものとなるよう、お手伝いする場でありたいと考えています。

2 これからの図書館サービス

(1) 市民ニーズに応える蔵書収集

- 様々な分野からの資料収集
外国語資料を含め幅広い分野から資料を収集し、蔵書の充実に努めます。
- 各地域の特性を生かした各館の資料配置
各地域の特性を生かした各館の資料配置を行い、特色ある蔵書を構成するよう図ります。
- 資料を適切に保管できる書棚の整備
資料の保存及び管理のため、書架や書庫の整備に努めます。
- 電子図書館の充実
電子図書館サービスについて、内容の充実に努めます。

(2) 市民に対する図書館サービスの周知及び、年齢層に応じた事業の展開

- 未利用者へのアプローチ
SNSなどの情報ツールを活用し、図書館の利用につながる

ような情報発信を積極的に行います。

- 年齢に応じた図書館サービスの推進
年齢層に応じた資料の充実、事業の実施に努めます。
- 官民連携の知の文化交流事業の推進
OKEGAWA hon プラス+イベントスペースを利用して、文化交流事業を継続して行います。

(3) 地域の情報拠点になり、市民生活の課題解決に役立つ図書館

- レファレンスサービスのPRと体制維持
レファレンス専用の対応ができる体制維持に努めます。
- 利用者が情報を直接取得できる環境の強化
資料の充実及びインターネット環境の整備に努めます。

(4) 子供が読書活動に親しむための体制強化

- 保護者に子供の読書の大切さを伝える
家庭でも読書について理解を深めてもらえるような継続的な働きかけや家族で利用しやすい図書館環境整備に努めます。
- 学校・地域のボランティアとの連携を深める
ボランティアと協力し、おはなし会や子供向け事業を継続して行います。
学校と情報交換を密に行い、団体貸出や図書館見学・体験を通して学習や読書の支援を行います。
- 子供の読書活動の推進
小学校低学年に対する利用登録の案内を行います。
関係機関と連携したセカンドブック事業の推進、読書アルバムの配布を行います。
- 児童書の充実と優良図書の普及
引き続き児童書の充実、優良な図書の普及に努めます。
- 子供と本をつなぐ取り組みの充実
中高生向けの講座の実施や情報提供に努めます。

(5) 障害のある方へのサービス

- 関係機関やボランティアと連携した障害に応じたサービスの充実
 - ・ 障害者サービスのPRに努めます。
 - ・ 通常の活字が読みづらい方が利用できる資料の充実を図ります。
 - ・ 柔軟な対応を心がけ、利用しやすい環境を整えます。

- ・全国の図書館との連携による資料提供の推進を図ります。
- ・サービスにおけるボランティアとの連携（点字・録音資料の製作、対面朗読等）を強化します。

(6) 高齢者を対象としたきめ細かなサービスの提供

- 高齢者向けの資料の収集や情報の提供
 - ・大活字本コーナーの充実に努めます。
 - ・ニーズに応じた資料を収集し、情報提供の方法も工夫します。
- 分かりやすく、手に取りやすい配架と環境整備
 - ・利用しやすい館内環境の整備に努めます。
 - ・学習・調査・読書等、長時間滞在できる環境の整備に努めます。

(7) 視聴覚サービス

- サービス拠点館の視聴覚資料・環境の整備
 - ・川田谷図書館のDVDの活用・収集について検討します。
 - ・桶川図書館のCDの更新に努めます。

(8) 郷土資料

- 郷土資料の収集と活用環境の整備
 - ・川田谷図書館を拠点に歴史民俗資料館と連携して郷土資料を充実させ、その保存と活用に努めます。
 - ・各館の郷土資料コーナーの充実に努めます。

(9) 読書会活動

- 団体への活動支援と活動場所の提供
 - ・団体の活動のサポートに努めます。
 - ・入会員を増やすため、活動の紹介の場を提供します。

(10) よりよい図書館運営のためのボランティアとの連携

- ボランティアとの協働による図書館サービスの推進
 - ・ボランティアとの連携を深め、協働のあり方を模索します。
 - ・利用者ニーズを把握し、更なる活動の機会を検討します。
 - ・講座等の開催等、ボランティアの育成、活動のサポートに努めます。

3 図書館施設の整備

(1) 既存施設の健全な管理

- 施設の防災安全対策の推進

利用者の安全確保、市の財産である蔵書の保存のため、防災安全対策に努めます。

4 図書館の運営

(1) 図書館管理運営とサービス水準の維持

- 指定管理者の管理・監督

指定管理者が図書館の適切な管理運営を行い、どの館でも大きな格差なく一定水準を満たした図書館サービスが提供できるよう、教育委員会が引き続き管理・監督を行います。

資 料 編

令和5年度 桶川市図書館 に関するアンケートの実施結果について

今後の図書館サービスの改善に役立てるために、桶川市図書館をご利用いただいている皆様からご意見・ご要望等をお聞かせいただきました。
その集計結果を下記の通りご報告します。

令和5年10月
指定管理者構成企業：
株式会社図書館流通センター

記

1. 調査対象□
桶川市図書館 3館に来館された図書館利用者
* 川田谷図書館(休館中)を除く図書館で実施
2. 調査方法□
入館者にアンケート用紙を配布し、その場で記入して所定の回収箱に投函していただくか、お持ち帰りのうえご記入後、期日までにカウンターや回収箱などに投函いただいて回収する方法で行いました。
3. 調査期間□
令和5年9月5日(火)～10日(日)で配布、17日(日)まで回収、のべ13日間
4. 配布時間□
開館時から閉館時間前まで
5. 配布及び回収数・回収率
※上記共通日程にて、各館ごと配布・回収をし、とりまとめて集計をしました。

図書館名	配布枚数	回収数	回収率
中央図書館	600部	415部	69.1%
桶川図書館	100部	97部	97.0%
坂田図書館	300部	225部	75.0%
3館合計	1,000部	737部	73.7%

※参考：令和4年度 結果 配布1,000部 回収744部 回収率74.4%
令和3年度 結果 配布1,030部 回収687部 回収率66.7%
令和2年度 結果 配布1,030部 回収710部 回収率68.9%
令和元年度 結果 配布1,080部 回収732部 回収率67.8%

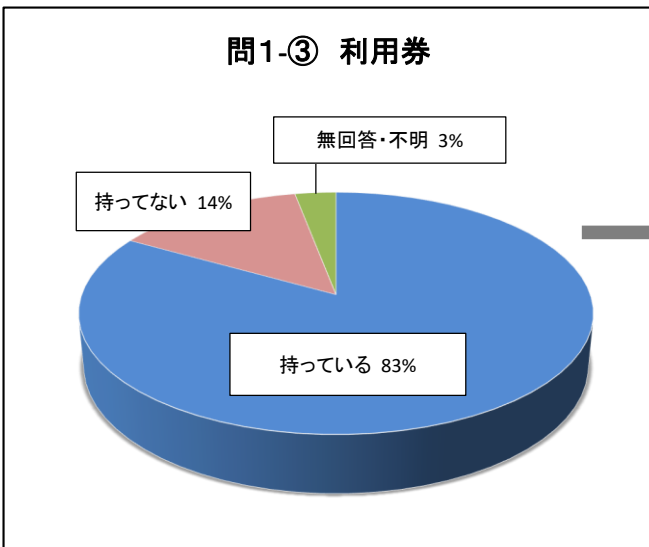
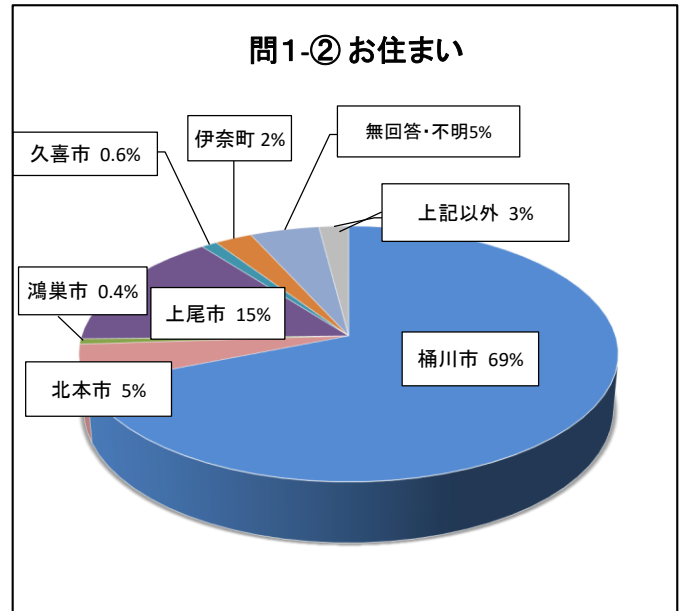
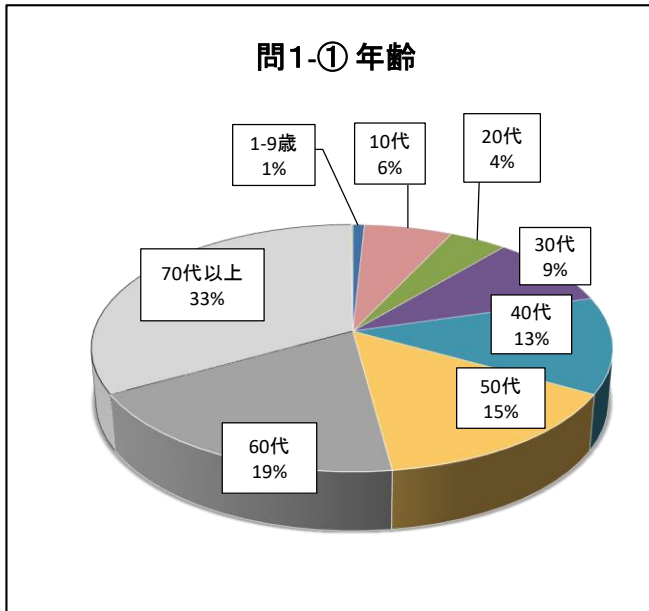
6. 次ページ以降に、設問ごとの集計結果詳細を掲載します。



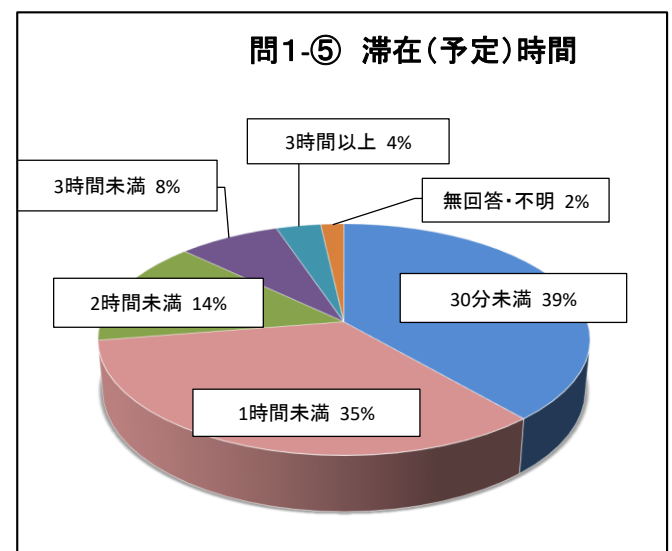
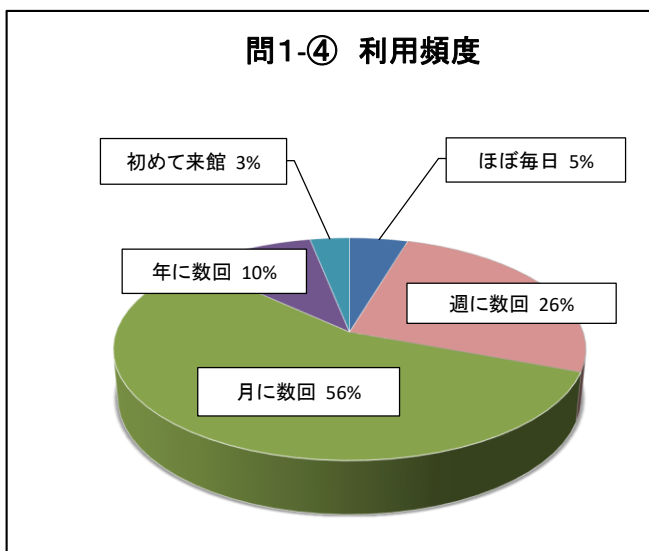
桶川市マスコットキャラクター オケちゃん

3図書館 集計結果(回答数737人)

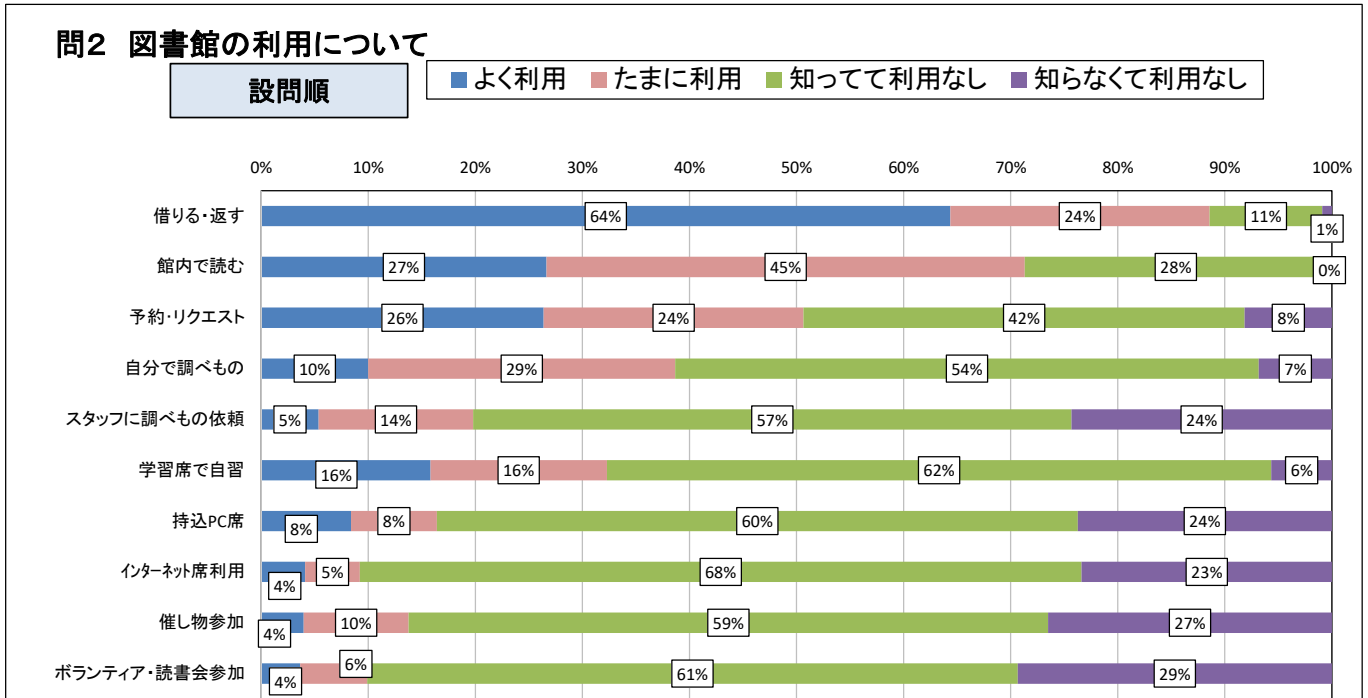
調査期間:令和5年9月5日(火)~9月17日(日)



- 利用券を持っていない方の理由
- ・ 閲覧のみ
 - ・ 家族が持っている
 - ・ 初来館



※ 問2～問4は、有効回答のみの分布・構成比を表示した。(無回答・不明は除外)

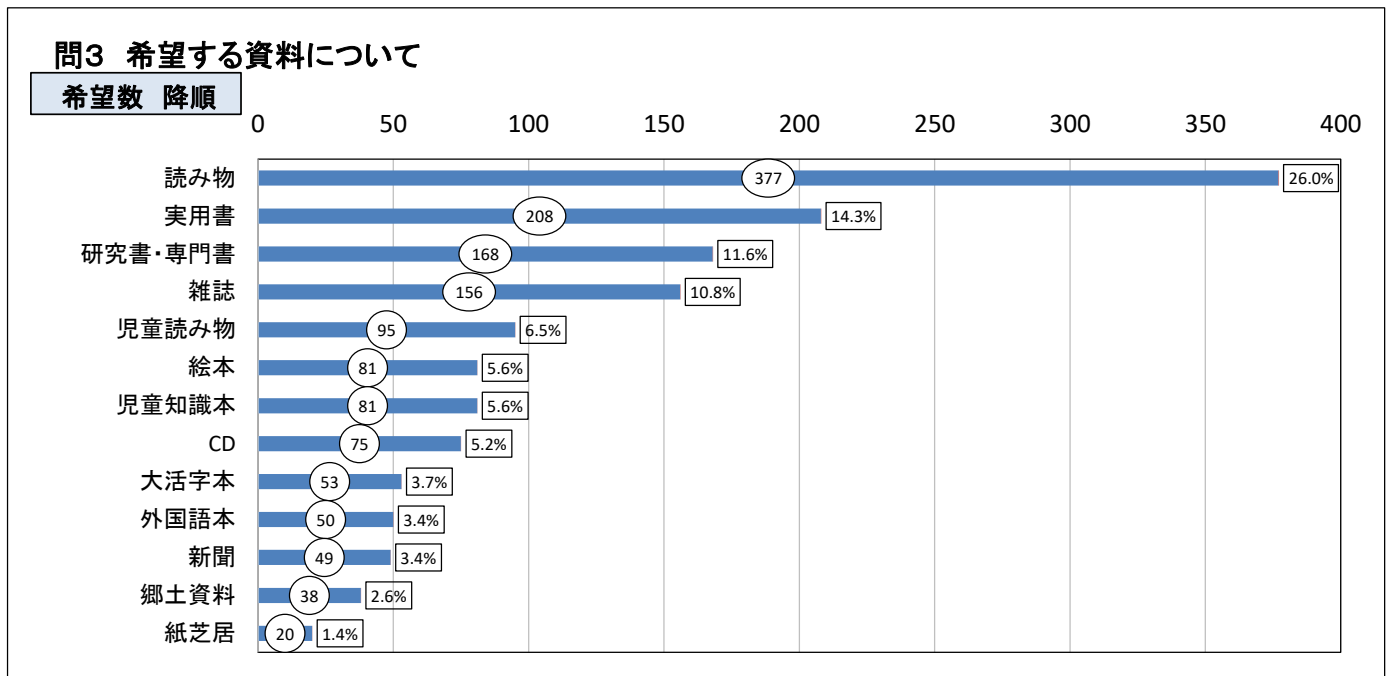


■ ・ 利用している項目(「よく利用+たまに利用」)合計値と、その前回差(上位3位)

1. 借りる・返す 88% (±0%)
2. 館内で読む 72% (+7%)
3. 予約・リクエスト 50% (±0%)

■ ・ 利用していない項目(「知ってて利用なし+知らなくて利用なし」)合計値と、その前回差(上位3位)

1. インターネット席利用 91% (▲3%)
2. ボランティア・読書会参加 91% (▲5%)
3. 催し物参加 86% (▲3%)



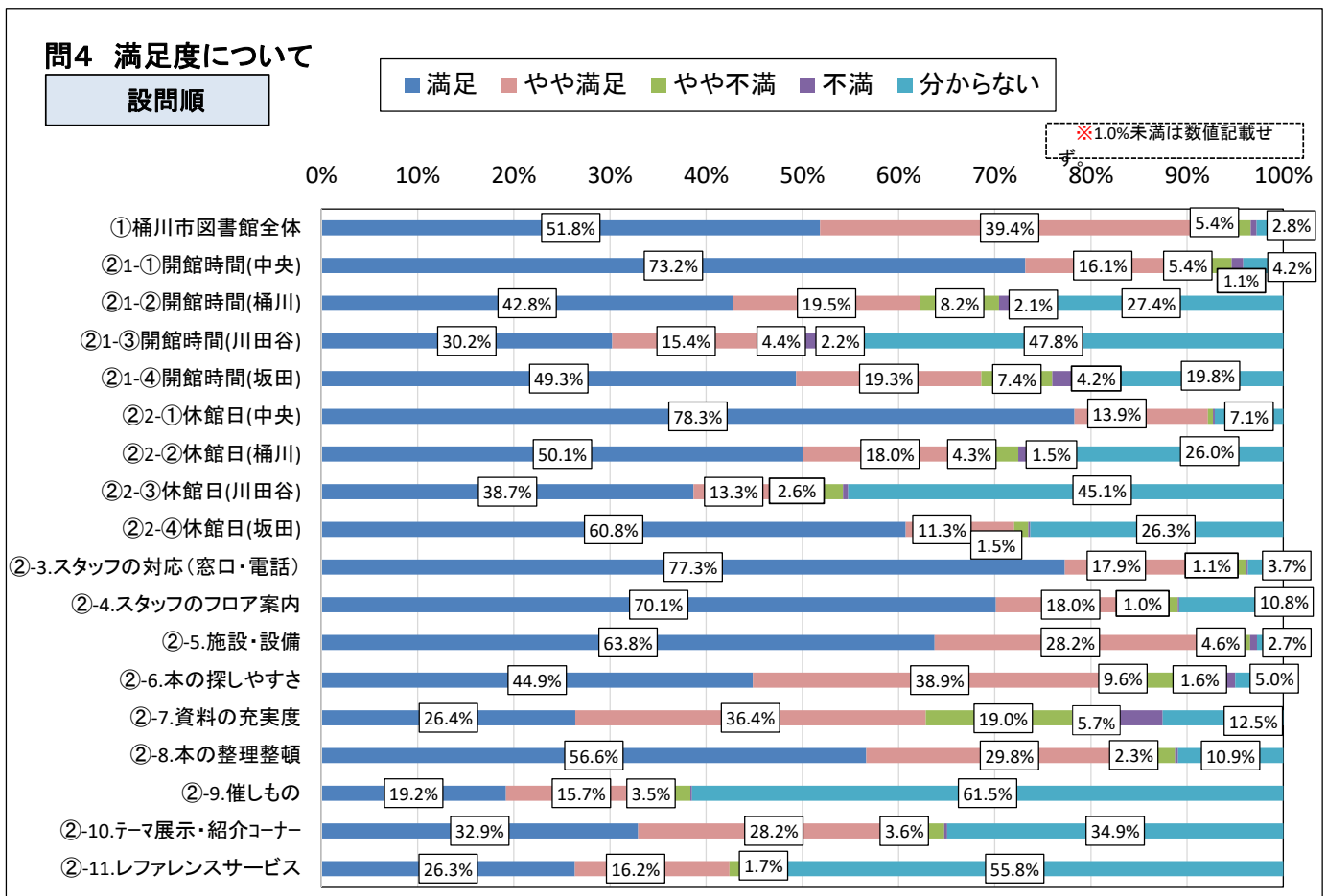
■ 延べ要望件数は1,451件(前回1,494件、前回は97.1%)
構成比に変動が見られたのは下記の通り。

構成比アップ

・読み物(+1.2)、児童読み物(+0.1)、大活字本(+0.6)、*新聞(±0)

構成比ダウン

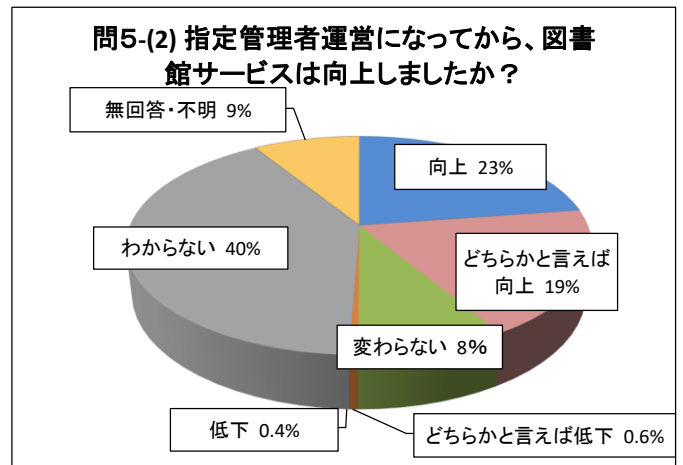
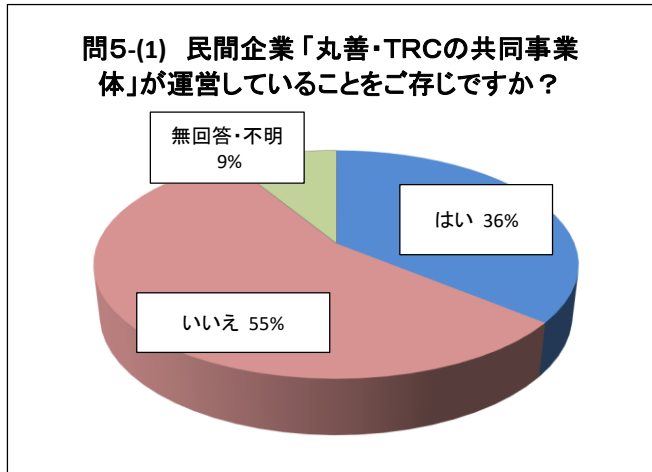
実用書(▲1.2)、雑誌(▲1.2)、絵本(▲0.8)、児童知識本(▲0.3)、CD(▲0.4)、郷土資料(▲0.6)、紙芝居(▲0.3)



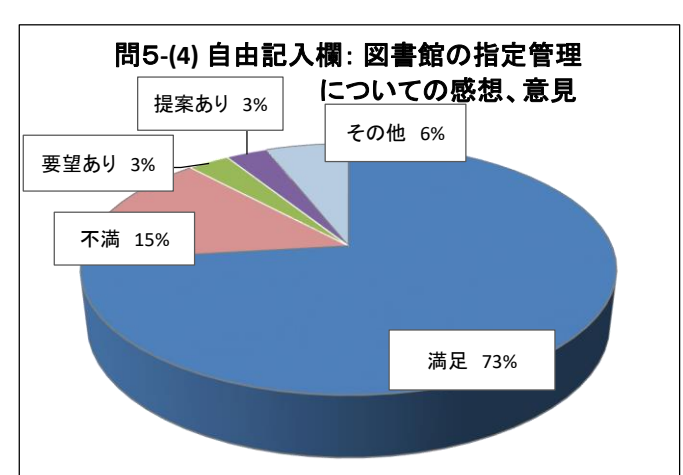
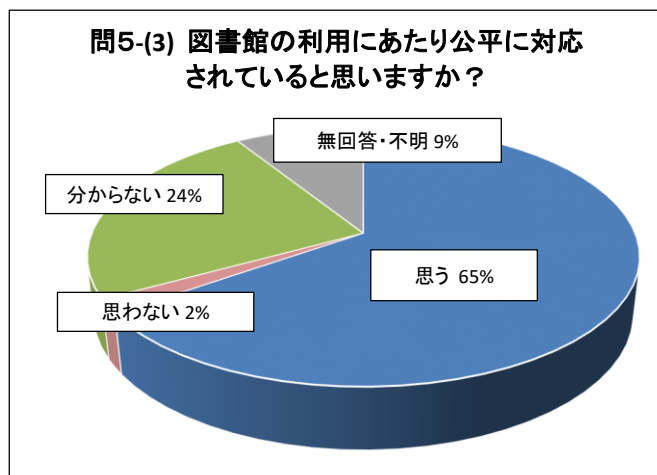
■ 「満足+やや満足」の合計値で満足度を検証した。②-3以降は4館合計値、()内は前回差。

① 桶川市図書館全体	...	91.2% (+1.0)
②-1. 開館時間	...	中央89.3%(+3.1)、桶川62.3%(▲1.9)、川田谷45.6%(▲3.0)、坂田68.6%(+4.5)
②-2. 休館日	...	中央92.2%(+2.5)、桶川68.1%(±0)、川田谷52.1%(▲1.0)、坂田72.1%(▲1.8)
②-3. スタッフ対応	...	95.2%(+1.0)
②-4. スタッフのフロア案内	...	88.1%(+0.1)
②-5. 施設・設備	...	92.0%(+0.1)
②-6. 本の探しやすさ	...	83.8%(+0.9)
②-7. 資料の充実度	...	62.8%(▲0.9)
②-8. 本の整理整頓	...	86.4%(▲4.4)
②-9. 催しもの	...	34.9%(+2.8)
②-10. テーマ展示・紹介コーナー	...	61.6%(+1.0)
②-11. レファレンスサービス	...	42.4%(+5.1)

※ 問5は、無回答・不明もカウントして、分布・構成比を表示した。



- 問5-(1) 民間企業「丸善・TRCの共同事業体」が運営していることをご存じの方は、36%(+1)
- 問5-(2) 図書館サービスが「向上」+「どちらかと言えば向上」合計で42%(+1)



- 問5-(3) 公平と思う65%(+1)、公平と思わない2%(±0)
- 問5-(4) 67件のご意見をいただきました。…ご意見詳細の分布は、下表参照。

内容	不満	要望	提案	その他	満足	計
蔵書資料の充実	1					1
資料の選定						0
時間(延長・短縮)						0
日の増減(休館日増減)						0
図書館システム						0
リクエスト	1					1
自動貸出機						0
検索機						0
電子図書館						0
ナクソス						0
ハッピークリーン						0
座席管理システム						0
Wi-Fi、NET環境						0
オンラインデータベース						0
インターネットPC						0
社会人席(PC持込み席)						0
閲覧席						0
学習席						0
読書アルバム						0
図書館イベント						0
施設・設備・館内環境	1				7	8
フロア案内						0
配架の工夫・レイアウト						0
展示・紹介						0
レファレンス						0
職員への対応	1	1			12	14
お褒めの言葉・苦言	3				28	31
ホームページ・広報等						0
利用者マナー						0
利用ルール		1	1	1	1	4
その他	3		1	3	1	8
総合計	10	2	2	4	49	67

ご意見の例

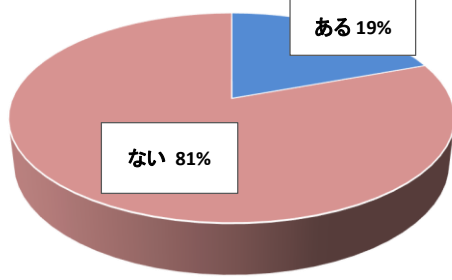
<メリット>

- ・従来の直営よりも安価でかつ図書館サービスの質が低下しなければ、有効な手段である。
- ・地方財政が圧迫している中で運営を外部に委嘱することによって、より良いサービスを提供できるため良いと思う。
- ・図書の専門企業が運営に関係しているのは期待できる。
- ・幅広い視野を持って、サービス、運営の向上に努めてくれる。
- ・サービスの向上につながったと思う。
- ・競争原理導入により良いと考えられる。

<デメリット>

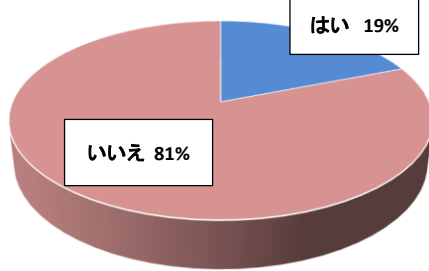
- ・良くなっているが中央図書館との差が大きい。
- ・コスト面がこの制度以前より低くなっているのかわからない。
- ・基本的には疑問があるが、現状ではやむをえない。

問6-(1)-① OKEGAWA honプラス+
のイベントへの参加



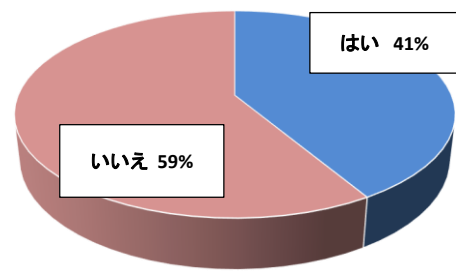
- 前回「ある」15% (+4%)
- 参加したことのある主なイベント
・講演会、ワークショップ、おはなし会、
子ども向けイベント、スタンプラリー

問6-(1)-② 「honプラス+通信」は
ご存じですか？



■ 前回 「はい」18% (+1)

問6-(1)-③ 「パネル展示」は
ご存じですか？

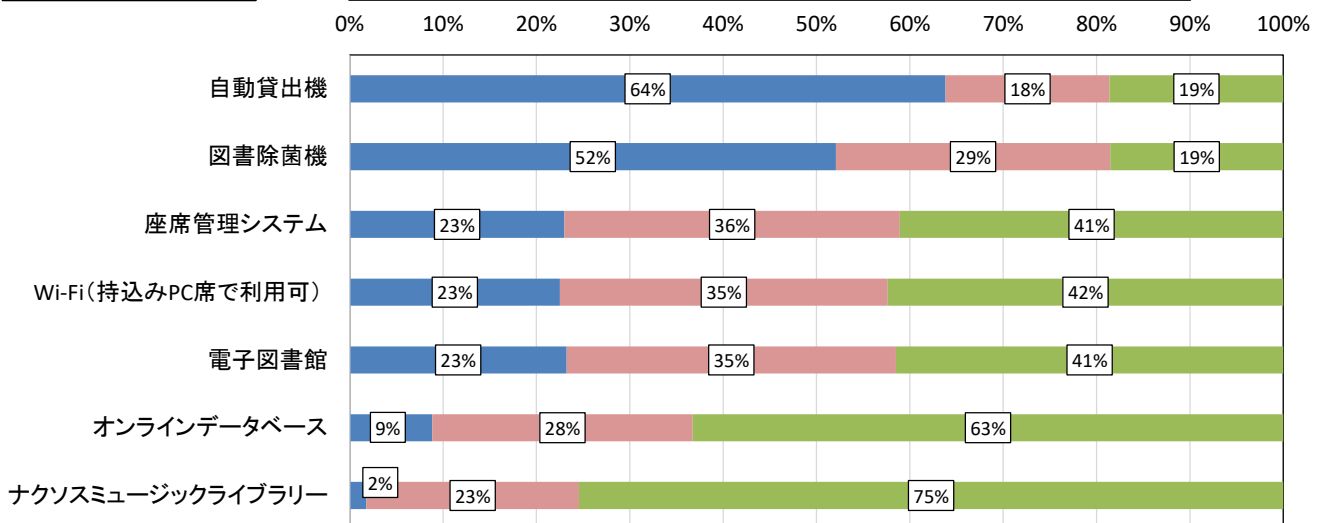


■ 前回 「はい」45% (▲4)

問6-(2) 中央図書館のサービスについて

■ 利用経験の降順

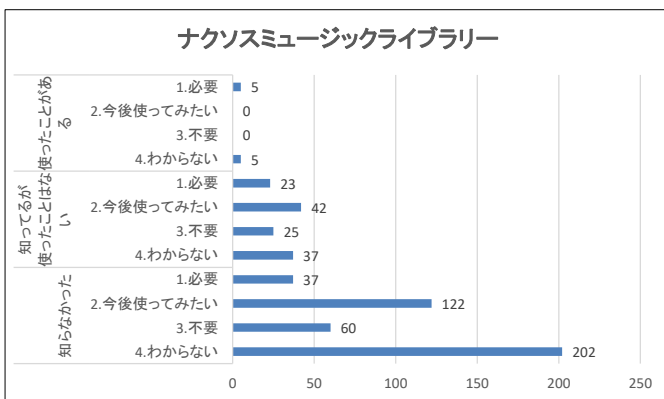
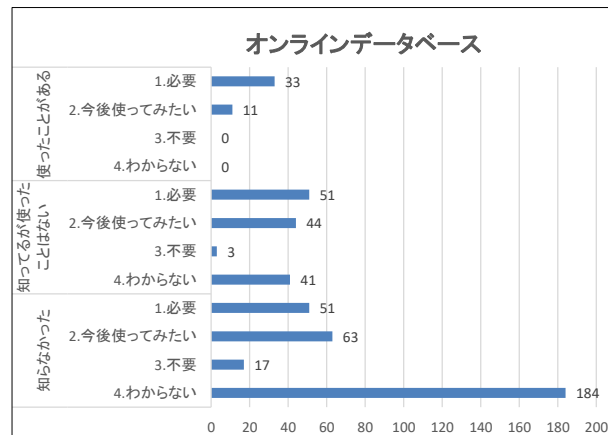
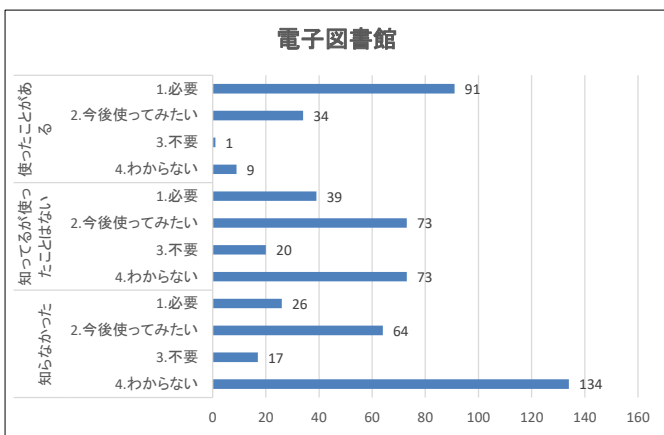
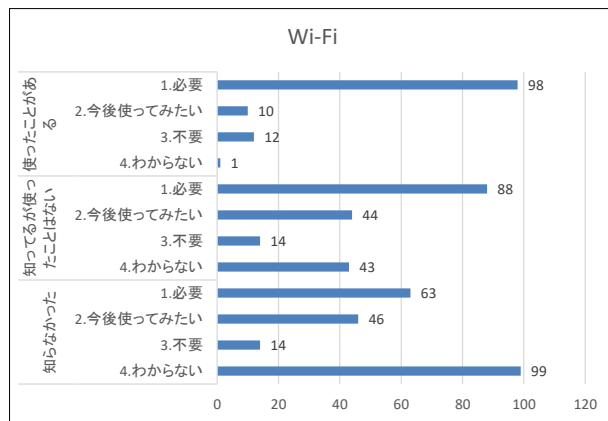
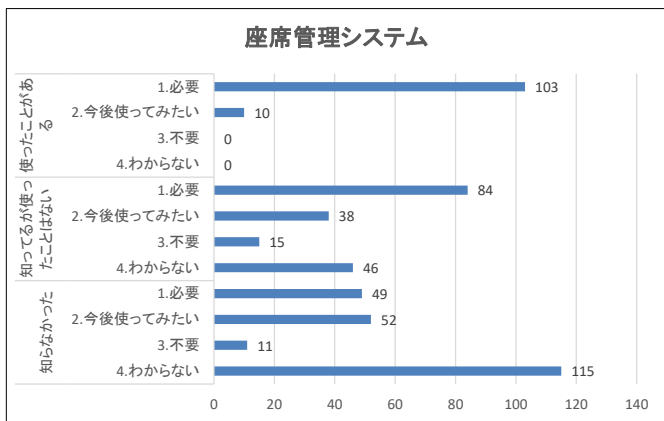
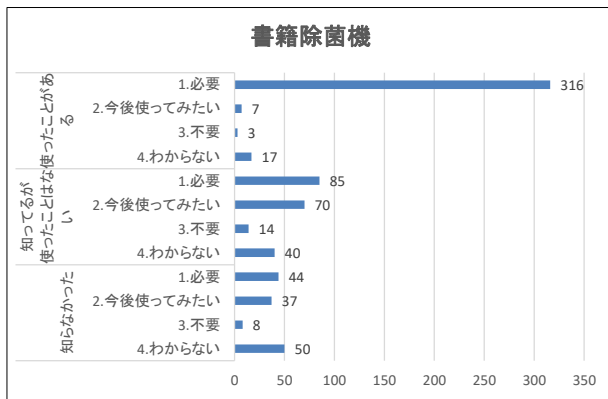
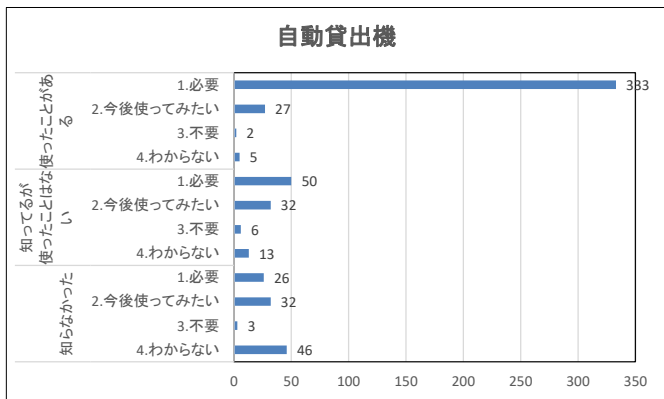
■ 使ったことがある ■ 知ってるが使ったことはない ■ 知らなかった



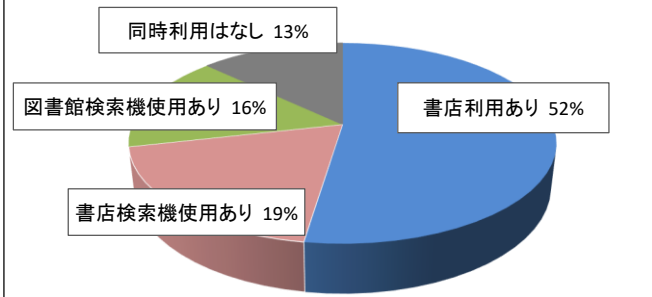
■ 前回より使用が増えた項目：WiFi(持込みPC席)+8%、電子図書館 +12%

更に、これまでの利用について、また必要か不要か？詳細に伺っています。

※下記、グラフ内数値は回答実数値



問6-(3) 図書館と書店の相互利用について



■ 図書館と書店の併存利用度について

- ・図書館から書店の利用あり 52%→52%(前回差 ±0%)
- ・書店と図書館の同時利用はなし 13%→13%(前回差 ±0%)

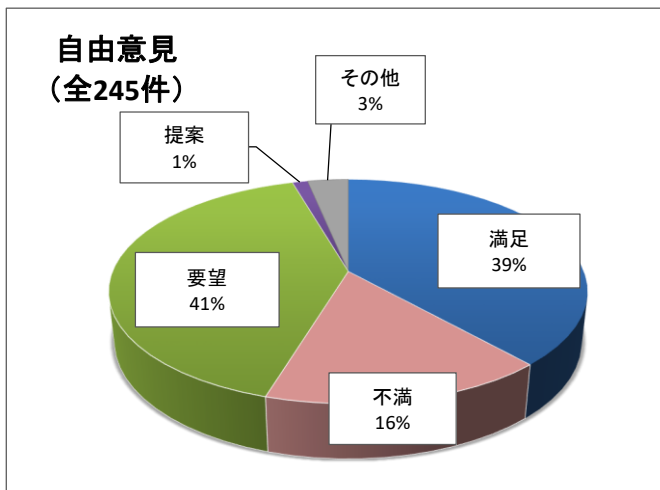
- ・図書館から書店の蔵書を検索 21%→19%(前回差 ▲2%)
- ・書店から図書館の蔵書を検索 19%→16%(前回差 ▲3%)

<ご意見例>

- ・図書館内で丸善の検索機が使って便利。デジタル化が進んで便利だと思います。
- ・他市では見られない方法でとても良いと思います。

— これで、定型の設問は終了です。 —

<最後のまとめ設問:自由記入> ご利用について、お気づきの点やご意見等(245件のご意見)



内容	不満	要望	提案	その他	満足	計
蔵書資料の充実	11	27	1		6	45
資料の選定	3	11			1	15
開館時間(延長・短縮)	1	12		1		14
開館日の増減(休館日増減)						
図書館システム	3	3				6
リクエスト	2	2			3	7
自動貸出機	1	1				2
検索機	1					1
電子図書館	1	1				1
ナクソス						
ハッピークリーン		1				1
座席管理システム						
Wi-Fi、NET環境		1				1
オンラインデータベース						
インターネットPC						
社会人席(PC持込み席)						
閲覧席		2			2	4
学習席		6			2	8
読書アルバム						
図書館イベント		2				2
施設・設備・館内環境	6	5	1			23
フロア案内						
配架の工夫・レイアウト	1	4			3	8
展示・紹介		2			3	5
レファレンス	1	1				2
職員の対応	1	2			13	16
お褒めの言葉・苦言	1	1		1	33	36
ホームページ・広報等		1				1
利用者マナー	3	1				4
利用ルール	4	6		1	2	13
その他	1	8	1	4	4	18
総合計	40	100	3	8	94	245

<代表的なご意見例>

①満足

◇施設・設備・館内環境に関して

- ・いつも静かで清潔にされているので落ち着いていられます。
- ・古書店で探してもない(絶版)の本がありうれしい。
- ・「返却された本です」のコーナーをいつも楽しみにしています

◇職員の対応に関して

- ・いつも丁寧な対応、挨拶ありがとうございます。
- ・係の皆さんが大変感じよく、心地よく利用しています。
- ・リクエストにも丁寧にお電話をいただき感謝しています。

②不満・要望

◇蔵書資料に関して

- ・図書館によっては蔵書は古いものが多い気がする。
- ・他市に比べてやや蔵書が少ないと思う。
- ・新しい本の順番(予約)がなかなか来ない。
- ・文庫版の小説の充実を希望したい。

◇開館時間に関して

- ・中央図書館が9時からあいているとうれしい。
- ・坂田図書館は開館時間を長くしてほしい。

◇席の利用に関して(学習席、持込PC席)

- ・全館で持ち込みPC利用席を可能にして欲しい。
- ・学習席が満席だったら他の席も使えるようにしてほしい。

③提案・その他

- ・予約時の取り置き期限14日は長すぎる。予約件数も10件は多い。
- ・絵本の並びが、あいうえお順だけでなく、年齢ごとなどに分けるとよい。
- ・図書カードをもっと固いものにしてほしい。

今回も数多くのご意見をいただきありがとうございました。
引き続き、図書館運営の参考にさせていただきます。
アンケートへのご協力ありがとうございました。

以上

図書館利用統計（令和4年度）

(1) 個人貸出

(ア) 貸出等

	中央	桶川	川田谷	坂田	合計
開館日数	337日	293日	76日	337日	1043日
利用者数	98,023人	11,508人	961人	24,472人	134,964人
1日当たり	291人	39人	13人	73人	129人
利用冊数	300,732冊	36,121冊	3,285冊	95,455冊	435,593冊
1日当たり	892冊	123冊	43冊	283冊	418冊

(内 訳)

	一般書	児童書	雑誌	紙芝居	CD	計
冊・点数	230,038冊	183,089冊	15,592冊	3,464冊	3,410点	435,593冊

(イ) 館内利用 LD

利用者数	13人
------	-----

(ウ) レファレンス件数

口頭	電話	合計
12,257件	1,533件	13,790件

(2) 団体貸出

利用団体数	481団体
利用冊数	2,469冊

(3) 貸出文庫

利用団体数	72団体
利用冊数	474冊

(4) 相互貸借

貸出	借受
1,824冊	5,957冊

(5) 広域利用統計

市町名	上尾市	北本市	鴻巣市	久喜市	伊奈町
利用者数	22,578人	5,193人	907人	548人	2,057人
利用冊数	78,228冊	15,391冊	2,020冊	1,762冊	11,878冊

※視聴覚資料を含む

(6) 登録者数

登録者数	67,083人
------	---------

令和 4 年度末蔵書数

(冊・点)

	中央	桶川	川田谷	坂田	合計
一般書	79,344	44,885	17,431	19,468	161,128
郷土資料	1,756	3,647	1,211	221	6,835
児童書	26,228	8,019	7,882	9,563	51,692
絵本	10,340	3,969	3,563	5,011	22,883
紙芝居	639	503	13	428	1,583
雑誌	1,835	637	1	1,028	3,501
C D	—	4,431	—	—	4,431
L D	—	—	2,215	—	2,215
DVD	—	—	304	—	304
その他 AV	—	8	—	—	8
合計	120,142	66,099	32,620	35,719	254,580

桶川市図書館サービス基本構想（第3次）策定時

桶川市教育委員名簿	
岩田 泉	教育長
水村 実男	教育長職務代理者
青木 健志	委員
西永 和子	委員
秋山 節子	委員
吉村 史朗	委員

桶川市図書館協議会委員名簿		
岸 典子	委員長	社会教育関係者
岩崎 葉子	副委員長	社会教育関係者
赤羽 広美	委員	学校教育関係者
高野 久美子	委員	社会教育関係者
松浦 あや子	委員	社会教育関係者
加藤 和枝	委員	家庭教育関係者
藤岡 聡	委員	学識経験者
天沼 律子	委員	学識経験者

桶川市図書館サービス基本構想 (第3次)
(令和6年度から令和10年度)

令和6年3月策定

発行 桶川市・桶川市教育委員会

担当 桶川市教育委員会事務局

教育部生涯学習・スポーツ推進課

〒363-8501 埼玉県桶川市泉一丁目3番28号

電話 048-786-3211 (代)

HP <https://www.city.okegawa.lg.jp>

※表紙のイラストは桶川市図書館のシンボルマークです。

こちらのQRコードからも本構想をご覧ください →

